

大三島は古くから観光で栄えた島であり、大山祇神社を中心とした観光資源も豊富。最近ではサイクリングブームの影響もあって、土・日曜日などは大勢の観光客が島を訪れる。しかしながら、多くはツアーを利用して大山祇神社周辺のみを観光する場合が多く、自然豊かな島を散策して風景を楽しんだり、島内に点在する美術館を巡ってアート作品に触れてみたりと、島内に宿泊してゆっくりと大三島を堪能する人は数少ない。

観光業が昔のように活気を取り戻し、島中が人でにぎわうよう、大三島の魅力の情報発信を核として、地域の人々と一緒にさまざまな地域活性化活動を行っている。



パンフレットの作成とPR活動

大三島の魅力が満載のパンフレット「私たちの大三島」を発行。取材や執筆、構成なども生徒らで手掛け、完成までに10か月を費やす。高校生目線で名所や店舗、住民などを紹介（2018年発行）。

また、高校生自らが配布し、島の魅力をPRしている。

地域イベントにおけるボランティア活動

写真部や音楽部などが地域のさまざまな団体から依頼を受け、積極的に活動をしている。

写真部 敬老会や地方祭などのイベントにおける写真撮影
音楽部 イベントでの演奏や福祉センターでの慰問活動など

瀬戸内島しょ部高校との連携地域PRイベント

大三島分校の呼び掛けで、愛媛・広島の8つの高校が合同でふるさとPRイベントを開催。各高校とも地元の特産品の紹介やクイズなど、趣向をこらしたアピールで会場を盛り上げた。（2018年8月4日 道の駅多々羅しまなみ公園）。



大三島分校生が行う 大三島魅力発信プロジェクト

地域の声

大三島分校は他校にも負けない特色のある学校。生徒たちは地域のために汗を流し、島ににぎわいを与えてくれる貴重な存在。ぜひとも、自然に囲まれた大三島で、大きく成長してほしい。



地域で分校生を見守る 相原育典さん

大山祇神社参道のボランティアガイド



参道に活気を取り戻そうと、歴史を学ぶ授業を機に2014年から実施。

1960年ごろの手作りの地図をもとに、随時新しい情報を加え、方言クイズなども織り交ぜながら大三島の魅力をPR、参加者を楽しませている。



伊東建築塾との協働「島デザイン部」

建築家伊東豊雄さんが塾長を務める伊東建築塾と連携し、ものづくりに携わる。これまで熊本地震被災者の交流施設に手作りの椅子を贈ったり、既存の小屋を改修して住民やサイクリストらが気軽に集える「島の休憩所」造りに参画したりしている。



地域おこしイベントの創出

かつて島に活気があふれていた時のイベントを復活。夕涼み会では、参道沿いの銭湯の名物だったかき氷を再現。輪投げやそうめん流しなど多くの露店がずらりと立ち並び、浴衣姿の大勢の家族連れらでにぎわった。（2018年8月25日）。